

# 総合新川橋病院看護主任が語る、「新川らしさ」とは？

看護主任

伊東 ゆかり × 中野 真由美

看護主任

今回、当院を代表する看護主任が登場。お酒を飲んだら悩みを忘れちゃう、伊東看護主任。そして子育ての悩みなららせて！と3人の子供のママである中野看護主任。お二人です。

\*

—それでは、最初にお伺いします。看護師になろうと思ったきっかけを教えてくださいませんか？

**伊東** 私は、おばが看護師だったのが一番大きかったですね。祖父が倒れたときも、真っ先に駆けつけてくれて色々に対応している姿をみて、「もし、自分の両親も何かあったら、同じように助けられたらな」と思いました。でも今では、実際の現場では、患者さんの病状を見て、ある程度状況がわかるので、優しくするというよりか…叱咤激励をしてしまい逆に厳しく思われているかもしれませんけどね（笑）

**中野** 私のきっかけは…ちょっと恥ずかしいのですが、通っていた高校の隣の、よく行っていたお好み焼きのおばちゃんに「看護師は安定しているからいいよ」と勧められたのがきっかけでした。それまでは、看護師という職業には、全く興味がありませんでした。強いていえば、父が私が幼いころ入院をしていたことがあって、その時の対応していた看護師さんが、大きくて明るくて力強かったのが、妙に印象には残っていましたね。

—中野さんは、お好み焼きのおばちゃんに感謝ですね。では、看護師になって周りの方の反応はいかがでしたか？

**伊東** 手に職がついたという点では、非常に喜ばれました。

**中野** 私は、自分自身が、血をみるのも苦手だったので親は相当驚いていましたよ。

—確かに、「手に職が付く」ことはどの時代でもニーズがあって、景況感にあまり左右されないですね。ちなみにお二人とも就職活動はどうされていましたか？

**伊東** 私は、委託生でしたので就活はせずに、そのまま当院に入職しました。

**中野** 私は、出身が鹿児島県なのですが、色々チャレンジしてみたいと思い、迷った末に東京に出てきました。以前は、大学病院で勤務していたのですが、結婚・出産などを経てブランクはあったのですが、間 10 年で復帰しました。

—ブランク 10 年とはすごいですね！不安はなかったですか？

**中野** ブランク 10 年ともなるとかなりの現実とのギャップがあったので、「新たに覚えていけばいいや！」と聞き直して、逆にそれが頑張れる要素になりましたね。

—伊東看護主任は、入職からずっと一筋、こちらで続けてこられた理由をお教えてくださいませんか？

**伊東** 他院に移りたいとは自然と思わなかったですね。でも看護師という職業自体、辞めたかったことは何度かありました。

—ちなみに、それでも現在に至るまで、頑張れた理由とは何でしょうか？

**伊東** 一番の理由は、病院建物の建てかえと共に、新たに脳外科が増えたことで、また新しい気持ちで、臨床の現場に立つことが出来、そこで仕事の楽しさを覚えたことが大きかったですね。

—そこで覚えた「楽しさ」をもう少し具体的にお話しいただけませんか？

**伊東** 患者さんの重度も様々ですが、たとえば、初めは意識がなく私が看護師だという認識も出来ない患者さんが、ある日突然意識もどることもあります。脳外科の現場ではそんなことが日常茶飯事です。患者さんのケアを、心をこめて重ねるほど、患者さんの回復状態に反映されるので、それが大きなやりがいや、嬉しさに繋がっています。

—担当した患者さんが、自分の足で立って日常生活に戻っていく。そんな姿を見ることで「また頑張ろう！」と思えるのは、とても共感できます。中野看護主任にお伺いします。ご自身で他の病院と比べて、当院の良いところはどのような点だと思われますか？

**中野** そうですね。以前勤務していた大学病院では看護師間の横の連携や、いわゆる「みんなで楽しく、和気あいあい」的な雰囲気は、良い意味であまりありませんでした。人数や規模もあるのですが、新しく入った看護師さんの顔や名前もよく分からない。そんな自分もその中の一人でありませんでしたね。そんな経験をしているからこそ、ウチのいいところは、看護師同士の距離が近くて、みんながみんなのことを良く知っている、より分かり合える環境にあること。だから自然と会話も増えますし、自然とよいコミュニケーションが取れていますね。またそれが一人じゃなくてみんながそういうタイプなので…それが輪を掛けて、「新川橋病院らしさ」が作られていると思います。良くも悪くも感じてですけど（笑）

—ありがとうございます。中野看護主任ご自身も、お話ししていて、明るくて親しみやすさが伝わってきます。今までのお話しを通じて、看護部の魅力は所々垣間見えた気がしますが、改めて最後に新川橋の看護部の魅力、「新川らしさ」とはを、教えてくださいませんか？

**中野** 看護師一人ひとりの個性を認めてくれるからこそ、個々がより輝いて生き生きと、より一層楽しく働ける環境があるところですね。病院には、色々な患者さんが来ます。看護師さんと患者さんも、もちろん人それぞれ個性がありますよね。お互いに個性を理解し合えば、よりお互いを知ることが出来、日々の病院生活も楽しんで、前向きに病氣と向き合い、充実して過ごしてもらえることが出来ると考えています。

**伊東** アットホームな雰囲気を、看護部全体で作りに出しているから、より楽しく働ける場所ですね。病院全体の雰囲気を作りだしているのは、看護部ですから！

例えば見知らぬ患者さんから突然「天気がいいわね～」なんて声をかけられたり、そんなことはしょっちゅうなんです。ようはそう言うやり取りが、何気なく交わされる雰囲気が、ウチの病院の雰囲気というか。家庭的というか（笑）

—ありがとうございます。日常のありのままにお話してくれる。そんなところも「新川らしさ」ってことですね。今日はお忙しい中、本当にありがとうございました。



左：中野真由美  
右：伊東ゆかり